

お知らせ

発表資料 平成19年9月20日

同時提供先

鳥根県県政記者会、出雲市政記者クラブ、松江市政記者クラブ

斐伊川放水路分流施設の概要について

斐伊川放水路事業も順調に進捗
最後の大型構造物になる、斐伊川放水路分流堰の概要についてお知らせします。

斐伊川放水路事業の概要

- ・斐伊川放水路事業は、斐伊川・神戸川治水計画として行われている3つの事業の一つで、斐伊川上流に尾原ダム、神戸川上流に志津見ダムのダム建設、下流の大橋川改修事業とあわせて実施されている事業（いわゆる3点セット）で、斐伊川中流で行われている事業です。

斐伊川放水路は斐伊川の流域で2日間平均399mmの雨が降った場合を想定して、斐伊川を流れる毎秒4,500tの洪水量のうち、毎秒2,000tの水を出雲市上島地点で放水路に分流させ、宍道湖へ流れ込む洪水を神戸川を通過して大社湾へ流し、松江市をはじめとした下流の地域を守ることが主な役割です。なお、斐伊川の洪水を新たに神戸川に上乘せして流すことになるため、神戸川の川幅も拡幅しており、神戸川沿川地域も洪水被害から守ります。

現在の神戸川の川幅を拡げる区間約9kmと、新たに山を切り開いて川を作る区間約4.1kmの13.1kmで工事を行っています。

斐伊川放水路事業の進捗状況は、平成18年度末現在で築堤約8割が概成、掘削約5割が終了、橋梁は25橋中16橋が完成しています。

斐伊川放水路分流堰の概要

- ・斐伊川放水路分流堰は、出雲市大津町上来原付近から同市上塩冶町半分までの4.1kmの新たに開削した部分に、洪水時に斐伊川本川から分流をさせ、斐伊川下流や宍道湖の水位上昇を抑えることにより、下流域を洪水被害から守るための施設です。

斐伊川本川流量が毎秒約400tを越えると、倒伏ゲートから放水路へ自然に越流を開始します。その後、本川流量が毎秒約500tを越えると、倒伏ゲートを倒す操作を開始し、斐伊川本川流量と放水路への分流量が概ね5：4になるようにします。

また、本川流量が計画流量毎秒4,500tになった際に放水路への分流量が毎秒2,000tを越える恐れがある場合は、制水ゲートを降ろして、放水路への分流量を毎秒2,000t以下にする様に操作します。

諸元

堰長約200m、制水ゲート2門、起伏ゲート5門、
管理橋(主要地方道県道出雲三刀屋線)(L=200m、W=10.75m)、管理棟1式

問い合わせ先

国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所 工務課

電話番号 0853-21-1850(代)

(担当) 事業対策官 佐藤 敦司 (内線 208)

放水路総括係長 河内 俊雄 (内線 364)

斐伊川放水路分流施設

概要

斐伊川放水路は、上流のダム建設、下流の大橋川改修とあわせて、斐伊川・神戸川総合治水対策のいわゆる3点セットの一部です。そのなかでも、分水堰は放水路の中核をなすもので、洪水時、斐伊川本川の計画高水流量4500m³/sを放水路に2000m³/sに分流させるための施設です。



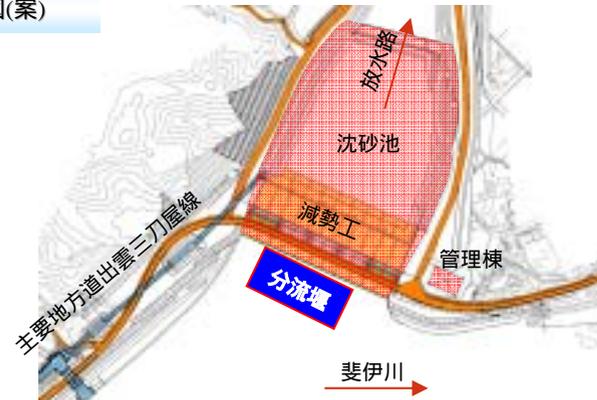
分流堰計画諸元

堰長約200m、制水ゲート2門、起伏ゲート5門、
管理橋(県道出雲三刀屋線) (L=約200m、W=10.75m)、沈砂池1式、管理棟1式

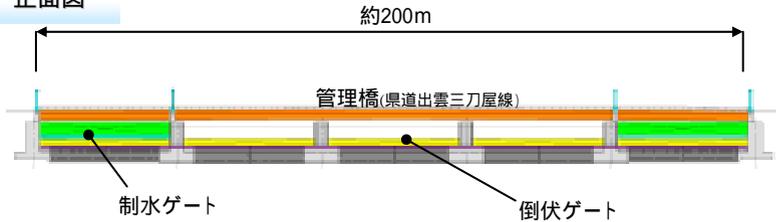
イメージパース



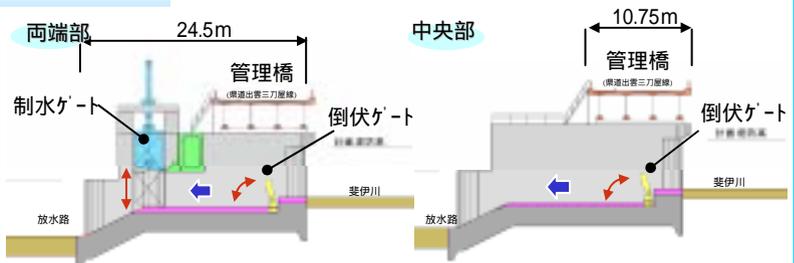
平面図(案)



正面図



ゲート詳細図



制水ゲート(2門)

平常時:全開
洪水時:分流量が2,000m³/sを超過する場合に閉める

起伏ゲート(5門)

平常時:起立 状態
洪水時:概ね400m³/sで越流開始
概ね500m³/sでゲート操作開始

イメージは実際とは異なります